

平成30年度第1回北海道子どもの未来づくり審議会 子ども部会 議事録

【日時】平成30年8月9日（木）10:00～16:00

【場所】第二水産ビル4F会議室

オリエンテーション

- ・事務局より、日程・注意事項などの説明



名刺交換

- ・高橋知事入室
- ・知事と子ども委員の名刺交換





開 会

・司会～保健福祉部子ども未来推進局 丸山主幹

高橋知事の挨拶

【高橋知事】

あらためまして皆さんおはようございます。道知事の高橋でございます。よろしくお願いいたします。

夏休みのこの時期に、全道の若い世代の皆さん方にお集まりいただいて、北海道の子どもの未来づくり審議会子ども部会の開催するのが恒例になっております。

これまでも皆さん方の先輩にあたる方々、最初に来られた方々はもう30歳を過ぎておられる方もいらっしゃると思います。それぐらい歴史のある子ども部会であります。

毎回全道からお集まりいただいた子ども部会の皆さん方には、北海道の大きな課題である少子化にどのように対応するかなどの課題について、それぞれの地域における皆さん方の生活環境であるとか、あるいは、それぞれの思いであるとか、いろいろなことを経て、ディスカッションをしていただいて、政策提言をしていただき、それを実績として我々道庁が行ったこともあるところであります。具体的には、部会長あるいは係員の人からのご説明を聞いていただければと思う次第であります。

そして、今年は、皆さん方ご存知でしょうか。北海道は北海道と命名されて150年という節目の年にあたっております。今週の日曜日には、天皇皇后両陛下ご臨席をいただいて、きたえーるという道立の施設で、150年記念式典を行わせていただきましたし、今年は夏休み時期を中心に様々な150年を記念する事業を行わせているところです。こうした2018年でありますので、皆さま方にはぜひ、「私たちが考える北海道の



未来」というテーマで、ご議論をいただき、様々なご提案をいただければと、このように思っているところがあります。

私たちが考える未来といっても、大変幅広いものでありまして、例えば、昨日私、参加をさせていただいたイベントでは「50年後の北海道の宇宙」、北海道と関連の深い宇宙がどのようになっているというイラストのコンクールがあったわけでございますけれども、これもみんなが考える北海道の未来であると思いますが、やはり、子ども部会の性格上、私どもといたしましては、少子化という課題を中心に、北海道の未来について、皆さま方がどのようにお考えになれるか、こういうことを議論の中心に据えていただければというふうに思っております。具体的には、部会長としっかり認識を深めながら議論を進めていただければと思うわけですが、来年の年明けに、さらに色々意見を聞かせていただければと思う次第であります。

ぜひ若者らしい、中学生らしい、高校生らしい視点での皆様方からの政策提言を心から期待をいたします。ありがとうございます。

記念撮影

- ・ 知事と子ども委員の記念撮影
- ・ 知事退室

名刺交換

- ・ 野村部会長と子ども部会委員の名刺交換

部会長挨拶



あらためまして、おはようございます。私、部会長を務めております野村と申します。

私は北海道社会福祉協議会というところに26年ほど勤めております。今日は、全道から17名の中学生、高校生の皆さんにお集まりいただきました。私も子ども部会の委員として、北海道の少子化、人口減少の問題について皆さんと一緒に考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ここに集まった皆さん、私も含めて今日初対面です、まだまだ緊張していると思っておりますので、簡単にリラックスをと言ってもすぐには無理かと思うのですが、徐々に普段通りの格好で話し合い、議論に参加してほしい

と思います。

さて、本日は少子化、それから人口減少の問題を踏まえた上で、これからの北海道について議論をしていただくことになっておりますが、少子化については、全国で問題になっていて、新聞やテレビなどで何度もこの言葉を耳にしたことがあるかと思えます。地域の子どもの数が少なくなり、学校が閉校してしまったとか、自分の卒業した小学校、通っている中学・高校のクラスの数が減っているとか、皆さん自身も身近なところで、少子化について実感しているのではないのでしょうか。

私の小学校も5年前に地域の小学校と統廃合され、少し寂しい思いをしている一人でもあります。こうした少子化の問題に対して、北海道の将来を担う若い皆さんたちが、ご自分の視点でどのようなことが必要なのかというところをぜひとも今回考えていただきたいと思えます。

今年度は、皆さんに、「私たちが考える北海道の未来」というちょっと壮大な難しいテーマになろうかと思えますが、このテーマで検討していただきたいと思っております。大きなテーマですが、皆さんが日々の生活の中で感じる、学校や地域での良い取り組み、もっとこうなったら良いなといった希望等も含めて、将来皆さんが恋愛をして、結婚をして、親となって子育てをしたり、子どもをもった段階で、仕事と家庭の両立をしたい、そういう希望を叶えるために、どんなようなことが必要なのだろうかということを今回と次回12月冬休みの2回にわたって、一緒になって議論をしていただきたいと思っております。

今日は長時間の会議となりますが、少しずつ緊張をほぐしていただいて、しっかりした実のある話し合いにしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



委員の自己紹介

- ・各子ども部会委員の自己紹介
- ・部会長の自己紹介
- ・進行役の自己紹介

副部会長の選出

【野村部会長】

審議に入る前に、1つ決めなければならないことがあります。この「子ども部会」の「設置要綱」という

きまりがありまして、ここでは「部会長、副部会長、部会委員をもってこの部会を構成する」と定められております。この副部会長を決めなければならないと、私、部会長をしているのですけれども、副部会長の役割は、部会長の補佐と、事故等があった時の代わりにしていただくということですが、もしもの時の部会長の代理となっております。

副部会長の決め方なんですけれども、要綱の上では、委員が互いに選ぶ、互選となっております。これから話し合いで決めたいと思っておりますが、今日会ったばかりですので、なかなか難しいと思っておりますが、このメンバーの中で、副部会長をやりたいと積極的な方はいらっしゃいますか。

(釧路：元岡委員挙手)

釧路の元岡委員が立候補されました。それでは、皆さん、副部会長を元岡委員にお願いをするということで、ご了解いただけますか。

(拍手)

ありがとうございます。それでは、元岡委員よろしく申し上げます。

それでは、グループ討議に入る前の事前講義として、北海道における少子化の現状や人口減少について、事務局から講義・説明をしていただきます。それではよろしくお願いいたします。

事前講義

【保健福祉部子ども未来推進局 千葉主査】

皆さん、こんにちは。私は、道庁で少子化対策の仕事をしている千葉といいます。皆さんの緊張が伝わって、私も少し緊張気味なのですが、堅い話になるかと思いますが、出来るだけわかりやすく説明をしたいと思っておりますので、皆さんもリラックスして聞いてください。

夕方まで時間も長いですし、今日は少し暑いので、もし、途中で暑いとか、体調が悪いなど感じるものがあつたら、遠慮なく周りにいるスタッフに伝えてください。よろしくお願いいたします。

今日は、皆さんに「私たちが考える北海道の未来」というテーマで、3つのグループに分かれて話をしてもらいますが、その前に、皆さん自己紹介の中で話があつたように、少子化について色々考えていると思うのですが、データのなところを改めて勉強していこうと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

皆さんにお配りしている「北海道の少子化について考えよう」というプリントと、事前にお送りさせていただいた「高校生向け少子化対策副読本」、もう一つが「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」の冊子はございますか。こちらを使って説明させていただきたいと思っております。

少子化ということですが、皆さんから提出していただいたプロフィールや先ほどの自己紹介のなかで、「学校



のクラスが減った」とか「学校の統廃合」だとか野村部会長からもお話がありました。私の母校の小学校が北広島にあるのですが、3年位前に高齢者の施設にかわって母校がなくなった一人でもあります。他にもプロフィールの中には、「生徒の数が少なかったので、やりたかった部活ができなかった」とか、身の回りの出来事の中に、少子化が進んでいると感じていると思います。

ここで、少子化の定義について、少子化とは何かということをご説明します。少子化とは、女性が一生の間に生む子どもの数の平均を示すとされる合計特殊出生率が、人口を維持するのに必要な水準である、概ね2.07を相当期間下回っていることを言います。簡単に言うと、一人の女性が一生に生む子どもの数が、子どもが2人以上いないと、まず人口は維持していけないだろうというようなことです。そのため、人口を維持するのに必要な水準というのが2.07となります。

この合計特殊出生率が、全国と北海道では、どのくらいの数値なのかというと、去年の数値で書いています。全国は1.43、北海道は1.29、つまり2人まで生んでいないということになっています。沖縄県では、1.94、宮崎県で1.73と高いところもあれば、北海道では、1.29ということで、一番低い東京都1.21に次いで2番目に低くなっています。

ここで、プロフィールの中で、外国の状況はどうなっているのというお話があったので、口頭ですが、簡単に説明をします。内閣府のホームページで調べたのですが、欧米では、フランスが合計特殊出生率1.92ということで高いです。二番目がスウェーデンで1.85、次いでアメリカが1.82ということで、日本よりも低いところはイタリアで1.34という状況になっています。アジアに目を向けると、中国のデータはなかったのですが、タイが1.4、日本より低くなると、お隣の韓国は1.17、香港が1.21、台湾が1.17と先進国に限って言えば、少子化が非常に問題になっていると言えます。

では、子どもの生まれる割合ではなく、数でみていきたいと思います。これは、出生数を表したグラフです。赤ちゃんが生まれた数です。昭和25年からずっと減ってきているということが一目で分かると思います。ちなみに、昭和47年頃、第二次ベビーブームと言われていた頃ですが、もしかすると皆さんのお父さんやお母さんが生まれた年代に近いのかもしれませんが、今年45歳前後の人たち、私も43歳なので、近いんですけども、その頃は、1年間に約9万5千人の赤ちゃんが北海道で生まれていました。ですが、昨年、平成29年の状況は3万4千40人で、第二次ベビーブームの頃から比べると、35%くらいしか赤ちゃんが生まれていないということです。



では、少子化が進むことで、どんな影響があるのだろうかということで次のページを開いてください。少子化の影響は色々あり、一例しか挙げていませんが、まず、一つ目の四角にあるとおり、地域や経済への影響です。少子化が進むことで、子どもがいない世帯や単身世帯が増え、高齢化や過疎化が進行していきます。そうすると、地域の活力がなくなっていき、いずれは、地域を維持していくのが難しくなってくるという問題が生じます。また、子どもの数が減るということは、若い世代の人が減って、働ける方そのものの数が少なくなっていくので、働ける人が少なくなれば、当然、人不足とかテレビで聞くと思うのですが、当然、経済活動の停滞や低下につながると言われております。

また、年金や医療などの社会保障の面でも、少ない人数でたくさんのお年寄りの方を支えていかなくては

ならないので、若い世代の負担が増えて、結果的に若い人の生活が苦しくなってしまうということも問題の一つとされています。

下の四角には、子どもへの影響として、子どもの数が少なくなると、色々な友達と遊んだり、交流する機会が減ると思います。そうすると、人と遊ぶことによる経験が減ってきますので、子どもの中で揉まれて育つということが少なくなると、子どもの健やかな成長という点では、影響を及ぼすかもしれないことが考えられます。

では、こうした少子化というのは、なぜ生じてきたのかということを中心に簡単に説明したいと思います。少子化は、様々な要因が複雑に関係して進行していると考えられています。まず挙げているのが「未婚化」「晩婚化」です。「未婚化」というのは、結婚しない方が増えているということです。左の表をご覧ください。こちらが、50歳時点での未婚率について表したものです。1985年位から急上昇していることが分かるかと思えます。もう一つ「晩婚化」は、結婚する年齢が高くなっているということです。右の表をご覧ください。平均初婚年齢と言って、初めて結婚する人の平均年齢を表していますが、こちらも年々、年齢が上がってきている傾向が続いています。

日本の場合、結婚した男女の間にほとんどの子どもが生まれていますので、結婚しない人が増えると、生まれる子どもの数ももちろん減りますし、結婚する年齢が遅くなると、出産する年齢も遅くなってきますので、少子化の進行に、影響してくると考えられています。

次のページをご覧ください。雇用環境の問題ということで、北海道の状況をお示ししています。左のグラフでは、若年者の失業率の推移です。平成26年時点では全国平均並となっていますが、特に男性の場合は平成20年からずっと全国平均より高い失業率となっています。失業率が高いということは、経済的な基盤が不安定になりますので、結婚したいけれども結婚出来ないですとか、子どもが欲しいけれども、あきらめざるを得ないということも、少子化の要因として考えられています。

そのほかにも、高校生向け少子化対策副読本の3ページをご覧ください。こちらに少子化の要因と背景が記載されています。未婚化、晩婚化以外にも核家族化というのがあります。北海道は、全国よりも核家族化が進んでいます。核家族というのは、お父さんお母さんと子どもの世帯、祖父母と一緒に暮らしていない、学校でも習っているのでしょうか。お父さんやお母さんだけで子育てをしていて、周りに手助けをしてくれる人がいないと、肉体的にも精神的にもなかなか辛いと思います。ちょっと何かあった時に、おじいちゃんやおばあちゃんが近くにいと預けたり、手助けをしてくれたりするので、そういったことも影響するのではないかとされています。おじいちゃんやおばあちゃんと住むと子育てにゆとりを持つことができるので、核家族化は少子化の要因の一つと考えられています。つまり、核家族化が進行している北海道においては、家庭における子育て支援の力が弱くなっているということが考えられます。

さらに、冊子の10ページを開いてください。意識調査の結果が載っています。妻の年齢別にみた理想の子ども数を持たない理由、この一番に挙げられているのが、「経済的理由」となっています。経済的な負担が大きいのというふうに考えているのが分かると思います。ここまで、ざっと、少子化の主な要因などをいくつかピックアップしてきましたが、これらの複雑なものが複雑に絡み合っ少子化が進行していると考えられています。

それでは、次に、北海道の少子化対策について、お話をします。北海道では、厳しい少子化の状況を踏まえ、全国に先駆けて、平成16年10月に少子化対策を進めるための「北海道子どもの未来づくりのための少子化対策推進条例」を制定しております。左の目的にあるとおり、「安心して子どもを生み育てることが

でき、子どもが健やかに成長できる環境を整備」、「子どもの未来に夢や希望が持てる社会を実現」、この二つを主な目的として、北海道をはじめ、市町村や事業者の方、道民みんなで、少子化対策を推進していきましょうということになっています。

この条例に基づいて、きちんと少子化対策を進めていくための計画を作っています。それが、次のページの「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」です。お配りしているピンクの厚い冊子が計画の本編になります。簡単に説明しますと、人の一生には、それぞれの段階、ライフステージがあります。結婚から妊娠・出産、子育て、そして子どもの自立というステージがあり、それぞれのライフステージにいる人が必要としている支援を行って、「安心して子どもを生み育てることができる環境」「子どもが健やかに成長できる環境」を作り、最終的には、先ほどもお話しした「子どもの未来に夢や希望が持てる社会の実現」を目指して、道庁の中の色々な部署が互いに協力し合いながら、少子化対策の取組を進めています。

次のページを開いてください。道の取組の一部を紹介しています。右側の北海道赤ちゃんのほっとステーションのステッカーが貼っているのを見たことがある方はいますか。手を挙げてみてください。あまりいらっしやらないですね。道庁の1階のロビーにも貼ってあるんですけども、「おむつ替え」や「授乳」ができるスペースですということで、道に登録してもらっています。そうすることで、赤ちゃんがいても、安心して外出できる環境を作ろうということによってやっております。他にも、母になる人への贈りもの運動やお父さん応援講座、どさんこ・子育て特典カード、こういうような取組がありますが、それ以外にも様々な取組をしていて、それがこちらのピンクの冊子に載っていますので、議論の際に活用していただければと思います。

他にも市町村が取り組んでいる少子化対策もあります。市町村の少子化対策については、例えば、皆さんが住む市町村でも、結婚を望む方への出会いの場を提供したり、プロフィールにも書かれていたのですが、子どもの医療費や保育料を助成している市町村など、皆さんの住んでいる市町村でも、少子化に向けた取組が行われています。

「君の椅子プロジェクト」ということで、旭川周辺の5町（東川町、剣淵町、愛別町、東神楽町、中川町）のほかに、長野県の売木村（うるぎ）が参加しているものです。これは何かというと、赤ちゃんが生まれた家庭に、「君の居場所はここにあるからね」というメッセージをこめて、椅子をお配りするというプロジェクトです。こうした市町村でも、様々な工夫を凝らして、少子化に対する取組が行われています。

最後に、この子ども部会の役割ですけれども、皆さんの視点から北海道の少子化対策について考え、意見を出していただき、それが適切に反映される環境を作っていこうというものになります。今年のテーマは、「私たちが考える北海道の未来」ということで、広いテーマですが、少子化の問題を中心に、とても難しいんですけども、皆さんの将来にとっても、とても大事な問題だと思っています。今日は、皆さんの家庭や学校、また、地域での出来事や体験から、色々と意見を出し合って、楽しみながら有意義に話し合いをしてほしいと思います。今日は皆さんから、たくさんの意見を聞けることを非常に楽しみにしています。以上、私からの説明を終わります。ありがとうございました。

【野村部会長】

どうもありがとうございました。それでは早速、ここからグループ討議に入ります。グループごとに机の配置を変えていきますので、皆さんもお手伝いをお願いしたいと思います。配置図のとおり場所を変換したいと思います。グループに分かれてからは、進行役の皆さんに話し合いをサポートしていただきながら進めてい

きたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

グループ討議

Aグループ



Bグループ



Cグループ



中間発表

【Aグループの発表】

Aグループの発表を始めたいと思います。Aグループのテーマはまだ書いていませんが、僕らが考えたのは、**経済面、結婚観、仕事面**を充実させた町を考えています。

少子化の現状をまず把握することが必要と考え、私たちは身近に少子化を感じる時を考えてみました。それは、たとえば、公園で遊んでいる子どもの数や地域の祭りにいる子どもの数が少なくなっているとか、学校で行われる体育祭や学校祭について子どもがいなくて行われる競技が決まってきたり、学校の合併やクラスの数が減ってしまったり、そういうところで少子化を感じる人が多いと考えました。

そしてなぜ少子化が進んでいるのかと考えたときに、結婚すればきっと子どもが生まれるだろうとみんな考えていたので、どうして結婚しないのかを考えてみました。

まず、一つ目は経済面についてです。経済面では、子どもを育てるのに、教育費や医療費がかかったり、結婚したりすると色々なお金がかかります。それを解決するためには、育児休暇に入ると祝い金が出たり、医療費や教育費が無料になったりするなどがあります。標津町では、教科書、制服が町から支給されたり、



出産祝い金が1人目の子どもには5万円2人目の子どもには10万円、3人目以上の子どもには50万円給付されるようになっていきます。それを北海道全体でもできるようになるといいと思いました。

次に結婚観についてです。結婚観では、結婚に消極的になっている、1人の時間が欲しい、出会いがないなどの考えがあります。それについての解決策は今まで結婚してきた人の結婚談を聞くことや出会い系（婚活）サイトを発展させるなどをすると良いと思います。

最後に仕事面についてです。仕事がしたい、復職が難しい、共働き社会になっている、育児休暇後の制度、仕事と子育ての両立などの課題があります。それを解決するためには、男女平等にしたり、育休後の職場復帰が約束されたり、子どもがいる人に休み等を優先されたり、会社に子どもを預けられる場所ができれば少子化が解決されて、北海道がもっと子どもで溢れるようになると思います。これでAグループの発表を終わります。

【野村部会長】

どうもありがとうございます。今発表いただいたところ、色々斬新な意見を出していただいたのですが、他のグループからちょっとこの辺りもう少し聞きたいとか、うちのグループで話したことと違うとか、同じとか、そういったものがあつたら、ぜひとも他のグループから質問をしていただければと思います。ただ、この質問の時間は、「こういうのはおかしいじゃないか。」というような否定的な意見はやめてください。ここはアイデア会議なので、それぞれのアイデアに対しての素朴な疑問、うちのグループでは気づかなかつたというような形のところを突いてもらうと全体の理解が深まるかなと思います。どうですか？ほかのグループからご質問は？

【Cグループ：元岡委員】

市の名前を忘れてしまったんですけど、子どもを産んだ人数によってお金の援助が変わる制度があるとおっしゃっていたじゃないですか。その市からいらつした方に質問なんですけど、その市は子どもがあまりいませんか？

【Aグループ：工藤委員】

いません。

【Cグループ：元岡委員】

いません。僕の頭の中では、そういうシステムがあるところは子どもが多いというイメージがあつたので質問をさせていただきました。

【野村部会長】

ほかにどうですか。疑問、質問、感想でも構いません。先程の子ども生まれたらもらえる祝い金について、大体子どもが少ないまちでそういう活性策のような形で、背中を押してくれるような、金銭の助成のような形を取るまちが最近多いです。元岡委員は釧路ですね？

【Cグループ：元岡委員】

はい、釧路です。

【野村部会長】

釧路は結構大きなまちです。子どもは少ないですけど、そういった部分も関連があるのかと思います。あとは、私の感想も含めて質問してもいいですか？鋭いところを突いています、仕事面のところで、復職が難しいという課題が出て来ましたが、そういうお話は、お父さん、お母さんなど周りの方に話を聞きになって、そういう話になったんでしょうか？Aグループの課題出していただいた方どうですか？

【Aグループ：鈴木委員】

復職が難しいという理由は、やはりテレビとかで見たのですが、育休になるとやはり仕事が空くと思います。忙しい時期に入ってしまうと、どうしても復職が難しいんじゃないかというのが最近テレビで問題になっていたの、こういうふうな形で表させていただきました。

【野村部会長】

ありがとうございます。私、中学、高校の時こんなこと絶対考えなかったと思って、感心してお聞きして質問してみました。Aグループにほかご質問ありますか。どうもありがとうございます。次、Bグループ、発表の用意をお願いいたします。

【Bグループの発表】

私たちは、この4つのテーマから考えて、この4つが実現したら良いんじゃないかと。これが実現することが私たちの理想なんじゃないかということで、理想の北海道というテーマで考えました。

まず、最初に子どもを育てやすい環境と言うことで、病院を作る、医療費、助成金、ふるさと納税、助成金は書いてあるとおりなんですけど、1人目2人目と増えるたびに、もらえる金額を増額したら良いんじゃないか。あとは、医療費の面では、医療費が無料ということだったら、やっぱり、子どもを育てやすいんじゃないかなというふうに思いました。それで、課題としては、診療所とお金という面で、診療所とか病院とか作ったりすると、あとお金は助成金とか増やしていけたらと。

あとは解決策としては、情報発信ということで、若い人たちにも情報発信したいと思ったので、YouTubeの広告やスマホの広告とかで目に付くようにしたらいいんじゃないかという意見が出ました。

2つ目で、北海道から出て行く人を減らすということなんですけど、1つ目の策として大学をいっぱい作るということです。まず、これは、北海道から出て行くということは、北海道に良い大学がないとか、近くに良い大学がないということなので、大学を積極的にいっぱい作っていくということです。2つ目、企業を呼ぶということです。これは、発展していない場所、村とかでいろんな企業を呼んで、しっかり発展していけたらいいんじゃないかということです。3つ目は、環境を改善していくということなんですけど、しっかり赤ちゃんを生んだり、育てたりしやすい環境、病院を建てるなどをしていけたら良いと思いました。



3つ目が子どもと触れあう場を作るということです。たとえば、祭りで交流の場を増やしたり、家庭科の授業で保育園や小学校に行くことで、子どもと接する場を増やしてあげたいと思いました。そして、課題では意識改革で、あまり保育園児と関わる機会がないので、子どもが怖いなど、そういう意識を持っている人も最近は多くなってきているので、意識改革にしました。解決策としては、家庭科の授業などで半年に一回など、保育園や小学校に行けたらそういう意識改革などをしていけるのではないかと思います。

4つ目は、待機児童を解消させていった方がいいという意見が出ました。まず、保育士が不足しているという意見が出て、忙しいイメージなどで減っているんじゃないかという話だったので、賃金を上げたりすると改善に繋がると思いました。保育所が不足しているということについては、解決策にも書いてあるんですけど、教職員の託児所を学校に作ったりしていくと良いと思いました。

まとめですが、現時点でこう見ていただいて、特に2つ目が解決策がまだ出ていない状況なので、次回の審議会の最終発表に向けて、もう少し案を考えていければいいと考えています。

あとはすべてのことにおいてなんですが、共通して漠然としているので、割と今やっていることも入っているんですけど、まだまだ、内容を濃くしていかないと難しい問題だと思うので、もう少し話し合いを重ねてきたらいいなと考えています。以上です。

【野村部会長】

どうもありがとうございます。先ほどと同じように、いまのBグループの発表に対して、ご質問、ご意見、感想どうですか。

【Cグループ：種田委員】

ユーチューブに広告を貼るという発想はとてもすばらしいと思ったんですけど、時間にもよるんですけど、ぼくだったら30秒から5分かかかる広告は絶対に「広告をスキップする」のボタンを押すんです。だから、ユーチューブだったら動画に目が行ってしまって、広告にはなかなか目が行かないと思う。だからもっとほかの場所はなかったのかというのはあります。

【Bグループ：石川委員】

飛ばせない広告を使うという技に出ようと思って、最近見たのは、政府の広報のCMをユーチューブで流してるのを見つけたんですけど、それ飛ばせなかったんです。これいいと思って、それを使おうと思っています。

【Cグループ：種田委員】

大丈夫ですか？自分の好きな動画見たいとき、飛ばせない広告が1分くらい出てきても大丈夫ですか？

【Bグループ：石川委員】

短くすればいいという話し合いが出ていたので、1分はきついと思っているんですけど、15秒くらいなら、飛ばさないんじゃないかと思っています。

【野村部会長】

次の質問者の方をお願いします。

【Cグループ：元岡委員】

感想になります。ユーチューブの広告もそうですけど、今までにない、今までだったら、「テレビに広告に載せようか、お金かかるけど。」というのが多くて、僕もそういうことしか頭になくて、ユーチューブの広告とか、いやそればかり言って申し訳ないんですけど、すごい斬新で最近のものとか取り入れているのが、すごいと思って、発表のまとめとかを見ていても分かりやすくて良かったですと思います。

【野村部会長】

ほかどうですか？この際ですから、何でも聞いてみてください。よろしいですか。

ユーチューブなどとなると、私みたいなおじさんにはちょっとついていけないところが結構あって、なかなか空中戦を横で見てる感じで新鮮な気持ちになりました。Bグループで理想の北海道ということでポスター的に見やすく作っていただきました。大変分かりやすいと思います。環境、北海道から出て行く人を減らす、子どもと触れあう場を作る、待機児童の解消をする、全部、道庁の施策になりそうなものばかりで、また次回もありますので、2時間で全部解決策をみなさん作っていただくと、私たち大人は今まで何をやっていったという話になりますので、もうちょっと時間をかけて練っていただくとより良いプランになるんじゃないかと思います。どうもありがとうございました。それでは最後Cグループ、発表の準備をお願いいたします。

【Cグループの発表】

僕たちCグループはまず、少子化がなぜ起こってしまうのかということについて、みんなでこういうふうにして付箋に意見を書いて出し合うところから始めました。こうやって見てもらうと分かるおと、みんなが書いたものを並べて、これは環境と要因を分けて考えました。それをまとめたのが裏の方になります。これも今まとめる途中で、この間にはそれぞれ解決策を検討していく予定です。

意見の代表例をまとめたものをこの辺に書いてあるんですけど、タイトル「私たちが考える子育てがしやすいまち、活気があるまち」。

経済面では、給料から年金や奨学金が差し引かれてしまう。これはやはり金銭的に負担がかかりすぎてしまう。また、学費が高い。これは市の政策なんですけど、この市であれば高校を卒業するまで医療費がかからないということが書かれております。出産については、いろんな出産の仕方があるということで例が挙がりました。無痛分娩を僕は知らなかったんですけど、これは女性の方が出産するときに麻酔などを使って、痛みを伴わない出産ができるという方法で、アンケートというか、女子が3人いらっやって、知ってるかを聞いたところ、知らない人がいらっやってたので、これも設備が必要となるんですけど、認知度をあげていくべきだというふうになっています。そしてこれは、近くに産婦人科がないということで、これはもうお



医者さんになっていただく、という問題なので難しいんですけど、こういうのも挙がりました。

子育ての環境、これは親目線です。親から見た子育ての環境、子どもを産んだ後の制度やサポートをもっと増やすべき。託児所とか保育施設があまりないとか、待機児童になってしまう。また、育児の不安を気軽に相談できるように、LINEや電話を使ってできたらもっと簡単に安心して、気軽に相談できるんじゃないかというふうになりました。子育ての環境、これは子どもから見た、子どもがこのようになればもっとよくなるだろうと。海や川で遊べる。書いてないんですけど挙がった意見として、公園で他の人と接することができる。少子化なので、やっぱりそういう機会が無くなってしまっているので、もっと町とか市が積極的に、例えば、月に一回体育大会のようなことを開いてみてはどうだろう、子ども同士のふれあいもできるだろう、まずは自然にふれあって欲しいという意見が出ました。裏の付箋はまとめになっていて、それぞれこういうふうにしたら、いいんじゃないかというのが緑の付箋に書いてあります。

まとめです。最後にこんなまちが良い、理想のまちを挙げてみました。大きい会社があればそこに勤めている人たちが、移住してくる。活気をつけたいというのと人口を増やす。これも結構理想ですけど、このまちだったらもっと良いという理想や目的になります。

時間があるので、裏の付箋の細かい意見について紹介します。経済面だと、お金の余裕がある町が良いとか保育園料が無料がいいとか、教育費が高いんじゃないかという、子どもを産んだときにかかる負担が大きいということが挙げられている。出産については先程の無痛分娩という方法を知らない方もいらっしゃるので、まず認知してもらうことが大事だという意見とともって産婦人科を増やしたいという意見がありました。これは私の母の実体験を引用させてもらったんですけども、子どもを産んで子育ての楽しさが分かったというのがあって、だからもっと子どもと触れあう機会が欲しいという意見がありました。

【野村部会長】

よろしいですか。ありがとうございます。それでは今のCグループの発表に対するご質問、ご意見、感想いかがでしょうか。3グループ目なので、重なるところ、微妙に違うところが出てきていると思います。自分のグループと論点、話し合った内容と違うとか少し違った角度だとかそういうところも、確認していただければと思います。いかがでしょうか。

完璧だったようですね、Cグループの発表。

私の方からご質問というか感想も含めて、お尋ねさせていただきたいと思います。産んでからのサポートとか、3つのグループすべてそうなんです、私と同じ年代には絶対考えつかない経済的なところ、そういうところに言及をいらっしゃいます、皆さん。

Cグループでは無痛分娩、こういう視点があるのかというところはびっくりしました。私事ですが、娘一人しか居なくて人口減少に歯止めをかけられていなかったんですけど、私の妻は無痛分娩というか帝王切開で、身体の都合でそうなったのですが、結構言われたんです、「ちゃんと産んでいないのダメだよ」のようなそういう昔ながらの。もう二十何年も前なので、なおさらそれが強くて、結構、妻は気にしてました。年配の方からそういうふうに言われたら悲しい気持ちになったというのがありました。

そういう意識のところ、結婚して子ども産んだら、ものすごい痛いんじゃないか、痛くてもう嫌だというようなご意見を出していただいた方は周りの方から聞かれたかと思います。そういうムードというか意識の部分もやはり少子化をどうするかという大きな課題を考えるにはそういう少し違った角度の方からのアプローチがあって、意識を変えていくというのが重要な対応策の1つというふうに気づかされました。大変ありがとうございます

ございます。Cグループどうもありがとうございました。

総括コメント

【野村部会長】

A B C 3グループ発表いただきまして、どうもありがとうございました。本日の会議の方はここで止めたいと思います。

最後に私の方からです。中間的なまとめにはならないんですが、そういったところをちょっとお話をして、この会議を終了に持って行きたいと思います。A B C 色々なプランを考えていただいて、大変どうもありがとうございます。すごい斬新なところから経済的なところまで、大人の事情的なところにもやっぱり全道から選ばれてきた皆さんなので、その辺も私たち大人が毎日の生活で醸し出したものが、気になったかという反省も踏まえつつお聞きをさせていただきました。

今日8月9日第1回の子ども部会で議論いただいて、次回第2回で解決策まで話し込んでいただいて、ある程度まとめを各グループでしていただきますが、4ヶ月くらい開き、もう次回会うときには外は白い世界になっていると思います。それまでに今日各グループで発表いただいた内容、課題はもうだいぶ出てきているのかと思います。2時間の話し合いで全部の対応策を作るのははっきり言って至難の業です。

次回、対応策のところまで完成させるために皆様方に宿題ではないですがお願いをしたいと思います。課題、それから対応策、いろんなものを出していただいたのですが、ご自分の住んでいるまちでそういう課題に対応できているのか、いないのか。もしかしたら、あるかもしれないです。1人目産んだら、いくら出すだとか、あと産んでからの助成金のようなものが、皆さんが住んでいるところでももしかしたらそういう制度があるかもしれません。それを調べてきていただいて、私のまちにあるという話があったら、次回のときにそれ持ってきて欲しいと思います。私のまちにこれあると気づいたということは皆様方も事前に少子化の資料をお送りして、比較のご自分のまちのことは調べてきて、今日はここにいらっしゃると思うので、どうして最初に調べたときに引っかからなかったのか、先程情報発信がありました。情報発信がまずかったから自分が調べたときにはそのアンテナに引っかからなかった、あるいは、あるのに引っかからなかったというのはどういうことなのか、その対応策として、先程出たユーチューブ広告というようなところが繋がっていくと思いますので、そこをご自分のグループの課題のところに対応策を考える上で、自分のまちがどうなっているのか再確認をしてきてください。あったとしたら、どうして知らされてなかったのか、その理由も考えてきていただけると、第2回の協議がもう少し深くなっていく、深まってくると思います。「あそこのまちであるのにどうして私のまちではないんだろう」とそういうところもです。

この提言書は高橋知事に提出しますので、高橋知事からそういう施策をやってないまちの町長にももしかしたら言ってくれるかもしれません。そういう部分で少しずつこの北海道が変わっていくきっかけになれば、この部会の存在意義があるというふうに思います。そういう部分も含めまして、今日は朝早くから見ず知らずの方とこういう協議をするというのはなかなかある機会ではないと思います。緊張された方もいっぱいいらっしゃると思います。本当に斬新な意見出していただきまして勉強になりました。どうもありがとうございます。

それでは会議の進行はここまでさせていただいて、事務局の方にお返しをさせていただきます。今日は大変ありがとうございました。

閉 会

・事務局からの連絡事項